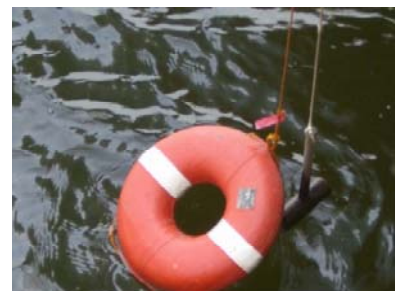


業 種	海運（貨物）
取組分野	情報伝達及びコミュニケーションの確保
テ ー マ	荷主、船社及び船員のコミュニケーションによる、夜間における船陸間通行時の安全確保のための取組
取組の狙い	<p>専用埠頭における船陸間通行時の安全確保については、手すり付き歩み板を架設するとともに転落防止用ネットを敷設しているところであるが、公共埠頭等（一部の工場専用埠頭を含む）では歩み板の架設も難しいケースもあり、転落防止用ネットの敷設は不可能であるため、船員の提案により公共埠頭等に着棧する際の転落時における救済対策として取り入れることにより、乗組員の更なる安全確保を図る</p>
具体的内容	<p>神鋼物流株式会社では、着棧時の船陸間通行については法令の定めにより歩み板にスタンションやネットの敷設を行うのは当然として、専用埠頭における転落事故の防止措置を実施している。しかしながら、船舶の喫水と岸壁の高さととの取りあいの関係で十分な転落防止措置を取れない公共埠頭等（一部の工場専用埠頭を含む）がある。このような岸壁の係船時の追加安全対策として、万が一、船員の夜間帰船時に踏み外し等による海中転落があった場合に備え、海面に木槌をセットした浮環を浮かべておくことで、落水時に木槌により船体を叩くことで在船している乗組員に気付いてもらい早期救助を可能とすることを期待している。</p> <p>当該措置を実施することとなった発端は、荷主の要請による専用埠頭における追加安全措置であるが、当社の船内安全委員会において検討したところ、当該措置は船員にとってさほど手間のかかるものでもなく、対して船員の安心感は非常に大きいことから、特に横付けで着棧することが多く、ハンドレールをまたぐ等不安定な乗下船をすることを余儀なくされる公共埠頭等において実施すべきではないか、との結論が得られた。</p> <p>本社海運部では、当該意見を受け、支配下の各船舶に対し着棧時の追加安全措置として当該アイデアを周知し、着棧時の作業マニュアルに追記した。</p>
取組の効果	<p>夜間の落水は、たとえ着棧中であっても周囲に人の目がないことから、一つ間違えば死亡事故につながる怖れがあり、実際に同様の状況による死亡事故は後を絶たないが、木槌で船体を叩く、という簡易な方法により在船中の乗組員に気付かせる方法は効果が高いものであるといえる。</p>



	<p>転落防止措置の徹底については、元々専用埠頭における荷主の要請により始めたものであるが、前述のとおり船内安全委員会からの公共埠頭等における有効な転落時における救助措置について、効果が期待できるとの提案を本社では真摯に受け止め、支配下の各船にフィードバックする水平展開を迅速に行うことにより、現場で働く乗組員の信頼を得る事例として情報提供いたしたい。</p> <p>措置導入後の使用事例は幸いにして発生していないが、今後は、当該措置の効果を検証し、更に見直しを行うなど、スパイラルアップを目指したい。</p>
事業者名	神鋼物流株式会社 海運部 連絡先：079-436-2353